

サイクリング環境づくりの進め方を考える

私たちのまとめたサイクリング環境づくりの提案を実現に結びつけるためには、私たちはどのように取り組んでいけばいいのでしょうか。そんな疑問や悩みを抱えた私たちは、2006年2月から3月にかけて、提案を持って行政の関係する部署を訪ねてみることにしました。

千代田区や東京都、国土交通省の道路を整備・維持管理したり、まちづくりや観光を考える部署の方たちに、質問したり意見交換した概要を、以下に紹介します。

サイクリング環境づくりの提案に関係する行政の担当部署を訪ねてみました

私たちのサイクリング環境づくりの提案は、道路のつくり方や駐輪スペースの整備、案内サイン、自転車観光マップなど、実はいろいろな分野に及んでいます。道路だけを取り上げても、国土交通省が管理する国道、東京都が管理する都道、千代田区が管理する区道があり、さらにその中でもさまざまな部署に分かれています。

私たちがヒアリング・意見交換させていただいた行政の担当部署は、これらの中のほんの一部に過ぎません。そのなかで、ヒアリングに応じてくれた方々には、担当する内容ばかりでなく周辺状況についてもできる限り教えていただき、また、個人的なご意見としても自転車のまちづくり活動のアイデアを提供していただいたりと、大きなご協力をいただきました。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

*以下のまとめでは、整備の現状や計画についてヒアリングした内容を、「東京を自転車で走る会」編集担当者(塩路)が要約して掲載しました。また、「個人的な見解」や「アドバイス・アイデア」として発言していただいた内容については、発言者のお名前を掲載しています。

ヒアリング・意見交換させていただいた方々

国土交通省 東京国道事務所 調査課長 川崎浩之さん

日時/2006.2.17(金)13:30~ 出席/橋本、塩路

東京都産業局観光部 参事 観光まちづくり担当 米原亮三さん

日時/2006.2.23(木)16:30~ 出席/岡崎、塩路

千代田区環境土木部道路公園課 課長 土本恵介さん

日時/2006.3.2(木)16:30~ 出席/岡崎、塩路

東京都 第一建設事務所(千代田・中央・港)

管理課長 本間秀生さん、補修課長 小笠原利充さん、補修係長 望月一郎さん

日時/2006.3.3(金)10:00~ 出席/岡崎

千代田区まちづくり推進部都市計画課 課長 飛澤宜成さん

日時/2006.3.13(月)15:30~ 出席/岡崎、塩路

1. 都心部の自転車に関わる道路等の整備の現状

都心部の自転車環境整備は、現在、どのように進められているのでしょうか？

平成 11 年度に作成された「自転車利用環境整備基本構想・提案書」(国土交通省、東京都、千代田区・中央区)に基づいた段階的な整備を進めています。

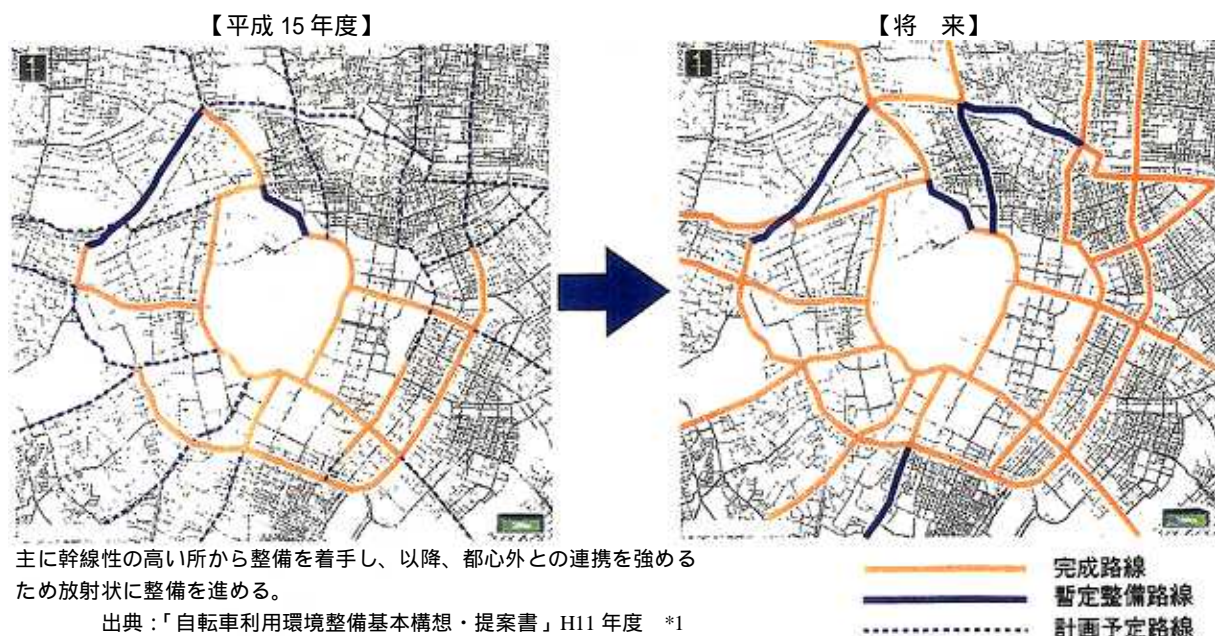
- ・「自転車利用環境整備基本構想・提案書」*1 では、外堀通りと昭和通りに囲まれた地区をモデル地区として設定し、主要国道、都道等の幹線道路を活用して自転車走行空間ネットワークを整備することとした。(下図参照)
- ・区の役割は基本的には自転車駐車場(駐輪場)整備で、駅を中心に計画に沿って整備を進めている。

自転車走行空間は、具体的にはどのように整備されているのですか？

「自転車利用環境整備基本構想・提案書」では、道路によって、車道上、歩道上、あるいは歩行者と共存型で自転車走行空間を整備する構想が示されていますが、現状では、幅員の広い歩道上での自転車走行帯の整備が進められています。

- ・提案書では、「車道上の自転車走行空間」、「歩道上の自転車走行空間」、「歩行者と共存型の走行空間」に分けて整備する構想が示されている。
- ・都道では、現状では車道を自転車道として整備する予定はなく、歩道の中で整備を行っている。有効幅員 4 m 以上の歩道は、2 分割し、歩行者帯は茶系、自転車帯はグレー系に色分けする マナー表示を設置 マナー表示の補助として自転車帯と歩行者帯の標識をつける 路面に自転車マークを表示 の 4 点が整備指針で出てきている。

自転車走行空間ネットワークの段階的整備



駐輪場は、どのように整備されているのですか？

基本的には駅前に駐輪場を整備しています。駅前以外では、公共施設の駐輪場を「公共施設利用型駐輪場」として開放型にしているものもあり、民間でも、一定規模以上の建物では駐輪場の設置を指導しています。

- ・千代田区・中央区では、駅前を中心に自転車駐車場の整備を進め、計画書に沿って14箇所を整備した。また、駅前以外では、「公共施設利用型駐輪場」として、官庁等の公共施設の駐輪場を開放型にしている所はある。
- ・民間の建物でも、一定規模以上では、駐車場、駐輪場とゴミを置くスペースを設けなくてはならないようになっており、指導しているが対応しない事業者もいる。

2. サイクリング環境づくりに向けて

休日の観光サイクリングでは、どうすれば駐輪場(スペース)が確保できるでしょうか？

駅前駐輪場を休日に開放することも検討の可能性はあるでしょう。また、まちなかの駐輪スペースは、地域のまちづくりの中での自転車環境として考えていくことが必要です。

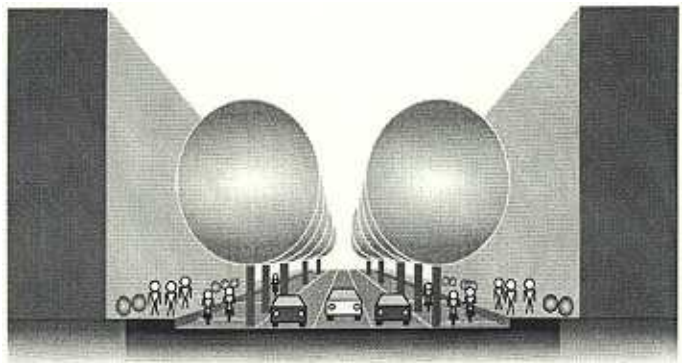
- ・駅前駐輪場に関しては、土日や休日は確かに使われていないところもあるので、個人的には開放してもいいのではないかと思います。休日に開放することについて、「東京を自転車で走る会」の提案は参考にしたい。(千代田区道路公園課/土本さん)
- ・まちづくりは、開発事業者と行政とが一緒になって進めなくてはできない。エコロジーの時代、自転車の時代になっている中で、自転車を利用する人の視点からまちづくりを考えていけるといい。大規模開発に際して、丸ビルや丸の内仲通りの整備では、当時は自転車の環境についての考えが希薄だった。大規模な開発は今後も計画されているので、これからは検討内容に組み入れ、道路整備のモデルをつくっていくことができればいいと思う。(千代田区道路公園課/土本さん)
- ・小さい駐輪スペースは、必ずしも道路につくる必要はない。本来は駐輪場というより、建物の脇に2、3台置くスペースがあればいいのだと思う。「自分の土地には駐輪スペースはつくれない」という事業者も、駐輪場整備を義務づけるような法制度を整備する以前に、自分たちが来る人たちをどう扱うか、どうもてなすかという考え方をすれば、そのような発想は出てこないのではないかと。千代田区が進めている政策は、基本的に道路(公共)で対応するという話とは別に、地域の問題として捉えている。道路を使ってもいいが、地域で対応すべきだと思う。道路に駐車スペースが2台分あるが、1台にしてその分駐輪スペースをつくらせてほしいということであれば、可能性がある。地域のまちづくりを地域が自らコントロールできれば、行政が決めるようなことはしなくていいのではないかと。(千代田区都市計画課/飛澤さん)

千代田区で、自転車を考えたまちづくりに取り組んでいるところはありますか？

「千代田区まちづくりランドデザイン」では、神田地区（神田警察通り等）および、四谷・麹町から千鳥ヶ淵を抜けて飯田橋に至る「緑・賑わいの軸」を設定しています。この「緑・賑わいの軸」では、自転車についても考えようとしています。

- ・千代田区では、区内のまちづくりの全体像や位置づけを地図上で表現する資料として「千代田区まちづくりランドデザイン」を作成した。その中で、「緑・賑わいの軸」を設定し、神田ではサイクリング道路があり地区内に呼び込んで、大手町と神田の交わるエリアの再開発で橋を架けたり、川沿いに歩行者専用道路をつくったりというイメージを出した。また四谷からも麹町を通る緑の軸をつくり、千鳥ヶ淵を經由し、飯田橋駅まで続いている。

- ・神田地区での「緑・賑わいの軸」を具体化する提案として、神田警察通りの道路を休日に自転車専用レーンとして活用する考え方を、平成16年度に「かんだ賑わいまちづくり構想」*2としてまとめた。これは、区から提案し、地域で議論するための材料としてもらうものである。



神田警察通りの整備イメージ（A案：休日）
車線数を3に減らし、平日のパーキングスペースを休日は自転車専用レーンとする。出典：「かんだ賑わいまちづくり構想」*2

千代田区のまちの機能と骨格のデザイン【展開マップ】

（図の一部抜粋） *図の外への引き出し線と説明は加筆



図出典：「千代田区まちづくりランドデザイン」千代田区作成資料

- ・また千鳥ヶ淵では、花見に来る人たちの歩行空間が足りないことや、年間通して楽しんでもらうため、車道1車線分を歩行空間に組み入れて広げる整備方針の検討を、警察を含めて行っている。「『千鳥ヶ淵四季の道』整備方針 中間のまとめ」では、具体的な緑道空間の計画に専用の自転車空間は入っていないが、歩行者空間が広がれば、自転車の走る空間も棲み分けられるのではないかとこのことで考えている。千鳥ヶ淵四季の道は、H19年度から工事に入る予定。
- ・「東京を自転車で走る会」が提案する自転車皇居一周は、この千鳥ヶ淵四季の道を通り北の丸公園を巡って、武道館、靖国神社も見て区役所前を通り竹橋に至るコースがいいのではないかと。現在、千代田区役所を建て替え中であり、区役所の前も整備される。(千代田区道路公園課/土本さん)

都心の観光に自転車を組み入れる考え方はありますか？

「東京都観光まちづくり基本指針」では、例示として“自転車を活かして回遊性を高める”という項目があり、まちの観光スポットを結ぶつなぎ方の一つとして自転車をあげています。また、国土交通省では日本の観光振興の一環として美しい道路空間づくりをめざす「シーニック・バイウェイ・ジャパン」(日本風景街道)という取り組みを始めようとしており、こういったことに自転車の視点から取り組んでみることも考えられると思います。

- ・東京都では、平成15年度に「東京都観光まちづくり基本指針」*4を作成した。そのなかで、例示としてではあるが、“自転車を活かして回遊性を高める”という項目がある。観光の形態はここ10~20年で変化し多様化して、個人旅行が多くなってきた。観光まちづくりでは、点在している地域資源を線でつないで一つの観光にしていく。観光スポットをつなぐ方法としては、電車や徒歩が多くなっており、また、観光資源自体が面化しており、まち歩き自体が目的になっている。そういうつなぎ方の一つとして、自転車があると思う。(東京都産業局観光部/米原さん)
- ・国土交通省では、「シーニック・バイウェイ・ジャパン」(日本風景街道)*として美しい道路空間づくりの新たな仕組みや制度の検討を行うため、現在モデルルートを公募している。これは、地方道・環境課が担当し、車等で走った時に周りが風景になりアメニティを感じる道路空間づくりを行うもので、背景には、「ピジット・ジャパン」として観光で人を呼ぼうという方向がある。
- ・この「シーニック・バイウェイ・ジャパン」の自転車版を考えてはどうか。道路には、車には不向きでも、自転車なら狭い道でも楽しめる歴史のある道などがある。千代田区や文京区は昔の地名も残り史跡もあるので、自転車の街道として、まず千代田区からモデルとしてやってみるのはどうか。

(国土交通省東京国道事務所/川崎さん)

* シーニック・バイウェイ・ジャパン(日本風景街道)

地域住民や企業と行政の協働により 道の担う役割の復古・再生、地域の資産の活用、新たな・多様な価値の創造、使われ方の負の遺産の精算等を目的として、自然、歴史、文化、風景などをテーマに、「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目指し、美しい道路空間の形成を図ることを目指す取り組み。

実際に道路空間づくりに取り組む地域への支援のあり方、地域が主導となった取り組みを行う上での課題等を把握し、新たな仕組みや制度の検討を行うため、ケーススタディとして先行的に取り組むモデルルートを公募している(応募期間：H18.1.20~3.31、選考・発表：H18.4)

出典：国土交通省ホームページ、日本風景街道ホームページ <http://www.hido.or.jp/>

3. その他のアドバイス

道路に関する提案や意見は「道の相談室」へ

- ・道路に関する疑問点や提案・意見は、出してもらうことによって、我々が見落としした点を直せる可能性がある。交通対策課に直接相談するのもよいが、「道の相談室」* といって、都道、国道、区道など、全ての道に関する相談を受けるところがある。国土交通省関東地方整備局のホームページに掲載があり、そこにメールしてもらってもいい。(国土交通省東京国道事務所/川崎さん)

* 「道の相談室」: 国土交通省関東地方整備局(さいたま市)にある。フリーダイヤル 0120-106-497

自転車に乗る人のマナー向上を

- ・私たちは幹線道路の整備構想を検討する時に、自転車と歩行者との棲み分けをどうするかということを中心に考えている。今問題になっているのは、自転車に乗る人のマナー。ゆったり歩いている人の後ろから自転車がベルをリンリン鳴らして追い抜き、トラブルになることが結構ある。現状の道路交通法では、自転車が走ることでできる歩道は指定されているが、それ以外の歩道では、自転車は遠慮して走ることをお願いしたい。そういうマナーがあって初めて、自転車に乗る人と歩行者が共存できる。(千代田区道路公園課/土本さん)

ヒアリング・意見交換を終えて...

東京を自転車で走る会/岡崎、塩路

塩路「一連のヒアリング・意見交換では、思った以上に面白い情報交換ができましたね」

岡崎「そうだったね。予想した以上に前向きに考えている人が多かった」

塩路「岡崎さんがかなり演説してましたからね(笑)。我々の活動をかなり印象づけたことでしょう」

岡崎「演説って、普及啓発に努めたわけですよ。個人的な意見でも、八丈島や伊豆大島など、島でレンタサイクルを提案したらどうかというアイデアを出してもらったりと、とてもいい反応だったね」

塩路「実際に都心に住んで、自転車で銀座に買い物に行っている人もいましたからね。ご自分としても現実味のある話として自転車を捉えていたのでしょうかね。それにしても、行政で意外に自転車のことを考えた取り組みがあるなあと、嬉しい驚きでした。“不法駐輪対策”しか目につかなかったので」

岡崎「うん、それはよかったですね。神田警察通りの休日自転車専用レーンの取組みなんて、まさに我々の要望にも入っていたものだよ。時間がかかってもぜひ実現してほしいよね」

塩路「千代田区のランドデザインに自転車を含む考え方があっていいですね。ダイレクトに『自転車』とはわかりにくいのが難点ですが、あらかじめ知ってたら活動も多少軌道修正していたかなあ」

岡崎「ニュートラルな立場で整理した課題も意味があるよ。知らないものの強みっていうこともある」

塩路「千代田区でまちづくり活動している人たちは、自転車についての行政の視点を知っているのかな」

岡崎「それは当然知らないでしょう!自転車の活動は千代田区では我々が初めてだったからね」

塩路「じゃあ、自転車の視点で得た情報を、ぜひ地域のまちづくり活動に伝えていきたいものですね」

岡崎「それには、助成事業を行っている(財)まちみらい千代田があるし、活動OBの『さぼてん』というグループもある。そんなつながりもあってそうなのが千代田区のいいところだね」(拍手)

*1 「自転車利用環境整備基本構想・提案書」H11年度 千代田区・中央区・東京都

*2 「かんだ賑わいまちづくり構想」H17.3 千代田区

*3 「『千鳥ヶ淵四季の道』整備方針 中間のまとめ」H18.2 千代田区環境土木部道路公園課

*4 「東京都観光まちづくり基本指針」H16.3 観光まちづくり推進協議会